

国語 第4学年 読んで考えたことを、友達と伝え合おう 検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：物語を読んで印象に残った言葉や人物の行動を選び、そこから考えたことを伝え合う。同じ場面を根拠にしても考えが異なることを確かめ、自分が見落としていた叙述を読み直す。C(1)力の学習として、読んで考えたことの記録。選んだ場面、根拠、考え、友達の見方、読み直して加えたことを並べる。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、物語を読んで考えたことに根拠を添えて共有し、同じ場面への感じ方に違いがあると気付いているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)力の姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：読んで考えたことの記録を残す。選んだ場面、根拠、考え、友達の見方、読み直して加えたことを並べる。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)力に関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：自分の経験だけで登場人物の気持ちを決める。友達と違う感想を誤りだと思う。これについて、発言を「根拠となる叙述」と「そこからの考え」に分けて板書する。意見が違ったら根拠を読み合い、どちらが正しいかの多数決はしない。人物名や場面の切れ目は使用する教科書で確かめて記す。〔知識及び技能〕(1)オとC(1)力を切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「この場面のどの言葉や行動から、その考えをもちましたか。同じ場面を読んだ友達は、何を大切にしていましたか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)力に関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：読んで考えたことの記録は紙に記録できる。選んだ場面、根拠、考え、友達の見方、読み直して加えたことを並べる。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)力の評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)力で目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：特定の解釈を教えてから話し合うのか。

返し：C(1)力の違いへの気づきを扱うため、結論を先にそろえない。叙述で確かめられる事実と、その事実からの想像を分けて検討する。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「この場面のどの言葉や行動から、その考えをもちましたか。同じ場面を読んだ友達は、何を大切にしていますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)カに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

